



長崎医師 保育サポートシステム通信

2019年度号

2020年2月発行

発行：長崎大学病院
メディカル・ワークライフ
バランスセンター

医師の仕事と子育ての両立を応援します

2019年度
佐世保地区
もスタート!

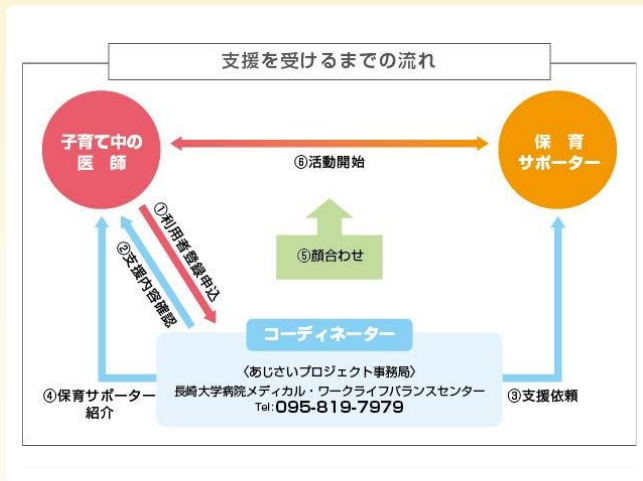


長崎医師保育サポートシステムは、長崎・県央医療圏の子育て中の医師（男女にかかわらず）が「仕事と育児の両立」を図るために、医師のニーズに応じて、保育サポーターの情報提供・紹介を行い、マッチングをコーディネートするシステムです。長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンターと長崎県医師会が協働で運営しています。

また、コーディネーターの派遣が難しい地域病院においては、ニーズがあれば、システム導入をサポートする活動を2018年度より開始しています。これまで、佐世保共済病院、佐世保中央病院、長崎県上五島病院はご賛同を得て導入しており、佐世保中央病院では2019年11月から早速、利用が始まっています。

おかげさまで、システムの利用医師数、活動した保育サポーター数は、**過去最多**となりました。

このシステムが、出産前と変わらず「仕事が続けられる」だけでなく、なりたい医師像に近づき、目標や夢に向かって「活躍できる」その一助になれば、幸甚です。



長崎県医師会常任理事 瀬戸 牧子先生 より

子どもを産み育てるとき、思いもよらないことが次々と起こります。特に一人目は嬉しくて可愛くて訳がわからないまま時が過ぎます。そして仕事を始めると、自分の都合だけでは動けなくなったことに気がつき、いらついたり、忙しさに余裕なく、どうしていいのかわからなくなってしまいう時があります。

そんな時、助けてくれるのは身内だけ、とは限りません。あなたが手を伸ばせば、手助けしてくれる方がいます。手助けしてくれる保育サポーターさんを探し、紹介することが、保育サポートシステムの役割です。

一人でも多くの仲間が医学・医療の場で活躍し、自分の未来に向かって羽ばたくことを応援しています。





●子どもの事故の予防や対処法について学ぶ

1. 子どもの行動・体の特徴と、発生しやすい事故の種類
2. 誤飲・誤嚥の対処法や誤飲チェッカーの紹介
3. ケガの手当の基本や身近なものを使った応急処置
4. 送迎サポートの際に注意すべき交通事故や、チャイルドシートの正しい装着方法
5. 水まわりの事故や、熱中症・脱水症の症状とその対処法
6. 病児・病後児のお子さんを預かる場合の看護の方法
(体温計の正しい使い方や発熱時の熱の冷まし方、けいれんを起こした際の対処法)
7. その他、転落・転倒や火傷、鼻血など発生しやすい事故・ケガへの予防と対処法

スキルアップ研修会・情報交換会 2019.11.21

●乳幼児の一次救命処置の実践



●保育サポーター同士の貴重な交流の場

- 「実際やってみると忘れていた事が多く、改めて確認できた」
「とにかく繰り返し受講することが大切なのかなと思う」
「保育サポーターさんの体験も聞いて大変良かった」
「おばあちゃんのような気持ちで手助けしたい」
「成長が楽しみ。お子さんの笑顔が嬉しい」

皆さまの声

2019年度に保育サポートシステムと関わりのあった皆さまから、メッセージをお寄せいただきました。

貴重なご意見は、今後の運営に反映してまいります。ありがとうございました。

利用者（医師）の声

●夜間のセミナーや、土曜日の講習などを受講する際に利用しています。祖父母が近くに住んでおらず、夫も忙しい時があるので保育サポーターさんのお陰で、私自身の行動の幅が広がり助かっています。保育サポーターさんのお宅で預かっていただきましたが、とても清潔なお宅で娘も楽しく過ごしていたので安心して預けることができます。

●夫婦ともに実家が他県にあることもあり、育児と仕事の両立に大きな不安がありました。子どもが新生児発熱で緊急入院となったことをきっかけに利用させて頂くことにしました。通常のサポートはもちろんですが、特に妻にとっては、子育ての不安に対してたくさん話をしてくれることが大変有難いようで、私たち夫婦にとって本当に大切なシステムとなっています。

●講演会に出席する場合などに、夕方保育園のお迎え、自宅で2時間程度子どもたちの見守りをさせていただくことが多いです。頻度は月1-2回程度で不定期ですが、“子どもが熱を出しても数時間自宅で看てもらえることができる”、“急なお迎えを依頼できる”など、「もしこうなったらどうしよう…」というような場面で、依頼できる相手ができただけで随分気持ちに余裕ができました。

保育サポーターの声

●週1回、先生が夕食の準備などをしている間に、2歳のお子さんのお世話や、洗濯物の片付け・掃除などの家事をお手伝いしています。サポートが始まった1年半前はまだハイハイをしていた頃でしたが、今ではおしゃべりをしたり私の名前を呼んでくれるようになりました。毎回成長の過程を見られるのが楽しみです。先生に安心していただけるよう、サポート中はまず一番にお子さんの事を考えて、安全で楽しい時間を心がけています。サポートが終わると豊かな気持ちになり、余韻に浸りながら帰宅しています。先生やお子さん達とめぐり会えて、サポートに関わることができて、とても幸せです。

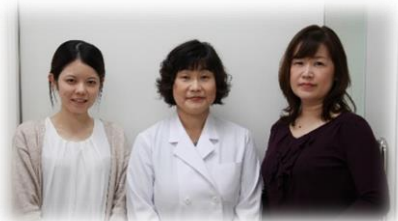
●現在、5歳のお子さんのサポートを始めて半年目に入ります。2週間に1回、夕方保育園のお迎え後、医師宅で夕食の準備・保育等を行っています。お迎えに行くと、時には抱きついてきたり、時にはモジモジしながら出てきたりと、私を笑顔にさせてくれます。サポート中は、洗濯物の片付けや、たまには途中になっている朝食の後片付けをしたりと、最近は娘の家にいるかのような心地良い空間になっています。またある時は、サポート日の夕食作りを頼まれ持っていきましたが、喜んでもらえて嬉しい限りです。先生ご家族といつまでご縁があるかわかりませんが、微力ながら少しでもお役に立てれば幸いです。

●初めてのサポートはお子さんが1歳5か月の時でした。顔合わせの時から人見知りもなくニコニコの笑顔で、保育園にお迎えに行くと、笑顔で近寄ってきてくれました。自宅前の公園で遊んだり、小学生になる我が子と自宅で一緒に遊んで過ごします。抱っこひもで抱っこして移動するのですが、車が好きなので、車やバスが通ると喜んで教えてくれて、毎回とても楽しく過ごさせてもらっています。また、病気の時に小児科の開院時間まで自宅で預かり、その後診察を受けてから病児保育施設へ連れていくこともありました。時々のサポートですが、困った時に思い出してもらえるような保育サポーターでいられたらと思っています。



お知らせ

- 2020年4月から、医師の皆さまに「システム登録料」をご負担いただくことになりました。
- 医師の皆さまには、「お知らせ」文書を同封していますので、ご確認をよろしくお願いいたします。



メディカル・ワークライフバランスセンター
スタッフ一同、よろしくお願いいたします。

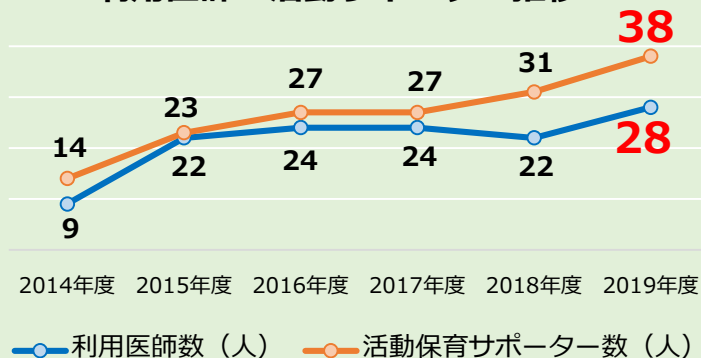
2019年度

活動状況

2019/4/1～2020/2/3現在

2019年度	利用者 (医師)	保育 サポーター
新規登録数	11名	24名
システム登録総数 うち利用・活動実数	56名 28名	148名 38名
資料請求数	14件	59件

利用医師・活動サポーター推移



●主な活動内容

- ◎サポートの頻度は、定期（月1回～週6日）または不定期など、幅広く対応しています。
- ◎サポート時間は、平均で1回2時間程度の利用が多いです。
 - ・医師宅やサポーター宅での保育
 - ・保護者在宅中の乳児見守りや保育
 - ・送迎のみ（保育園・幼稚園・習い事・学童等）
 - ・保育園・幼稚園・学童へお迎え+その後の保育
 - ・病児保育（受診や病児保育施設への送迎、発熱時の保育園お迎え等）
 - ・その他（健診付き添い、外遊び、外出先での保育等） など
+保育と合わせて家事支援を行う場合もあります。



利用者（医師）の皆さまへ

- ①登録内容に変更がある場合は、センターまでご連絡ください。
（住所、勤務先、支援を受ける子どもの人数など）
- ②同封の「登録確認書」は**3月6日（金）までにセンターまでご提出ください。**

保育サポーターの皆さまへ

- ①登録内容に変更がある場合は、センターまでご連絡ください。
（住所、活動可能な時間帯、活動内容など）
 - ②活動中の保育サポーターのみなさんへ
2020年3月活動分までの「活動報告書」は、4月6日（月）までに必ずご提出ください。
（難しい場合は、一旦期日までに電話かFAXで報告ください。）
- ※各機関へ詳細な実績報告が必要なため、ご協力をお願いいたします。



問い合わせ先

【長崎医師保育サポートシステム】

長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
〒852-8501 長崎市坂本1丁目7-1 TEL&FAX **095-819-7979**
メール info01@nagasaki-ajisai.jp **あじさいプロジェクト** で検索



<Webサイト>